

## 在校生代表のことば（送辞）

草木もようやく長い冬の眠りから目覚め、生命の息吹が感じられる季節となりました。

三年生みなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

たくさんの思い出に彩られた、高校生活の締めくくりとなる本日の卒業式。今、先輩方はどのような思いでいらっしゃるでしょうか。



振り返ると、部活動や委員会活動、学校行事等、様々な場面で、ご活躍されていらっしゃいました。その新しいことに挑戦していかれる先輩方の勇姿は「厚木東でチャレンジ」を形として、私たち後輩に示してくださいました。共に過ごした時間の中で、かけていただいた言葉の数々は、私たちを導く羅針盤として今も心に残っています。

新しい制服に緊張し、慣れない校舎で右も左も分からなかった時から、私たちにとって先輩方の背中はとても大きく、また目指すべき姿になりました。そのような先輩方が今日で卒業されるというのは、うれしい気持ちはもちろんのこと、少しのさみしさもあります。

しかし、今度は私たちが後輩たちへ、厚木東高校の伝統と共に、その姿をつないでいきます。

これから先、先輩方がそれぞれの未来に向かって歩まれる中で、苦しいことや辛いことがあるかと思います。

そのような時には、厚木東高校でめぐり会った友人たちとの絆や、培った経験の全てを力にかえて、様々な試練を乗り越えていって下さい。

最期に、先輩方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、在校生代表の言葉とさせていただきます。



令和2年3月1日  
神奈川県立厚木東高等学校  
在校生代表 三浦 結衣

## 卒業生代表の言葉（答辞）

林交差点から厚木東高校へとつながる長い一本の坂を「あと何回、上って登校するのだろうか」と思い、期待に胸をふくらませていた入学式の日を私はふと思い出します。

あの日から、三年がたち校内の生き物たちも、また新たな春に向けて身支度を始める季節となりました。

今日私たち三年生は、厚木東高校を卒業します。厚木東高校で過ごした三年間を振り返ると、高校生活の短さを感じます。

高校生活での思い出は、まさに「十人十色」でしょう。手児奈祭・体育祭・球技大会などの学校行事が印象に残っている人。部活動・委員会活動を始めとする生徒会活動の思い出が浮かぶ人。修学旅行や遠足などの校外での行事が思い浮かぶ人。そして、何気ない日常の学校生活を思い出す人。この厚木東高校での高校生活には一人ひとりのストーリーがあったのではないのでしょうか。

ですが、私たちの高校生活、この三年間で共通するのは、多くの人との「つながり」があったこと、そして多くの人との「支えあい」があったことだと、私は思います。

学校行事の楽しい思い出。部活動でのプレーや演奏。何気ない日常。これまでの学校生活を振り返ると、そのすべては、多くの人とのつながりによってもたらされたものでした。また、日々の生活の支えには、先生方や地域の方々、そして私たちの家族の存在がありました。

私たちは、この三年間の中で厚木東高校でしか得られなかったかけがえのない「つながり」を。そして多くの人からの「支え」によって、一回りも二回りも大きくなれた自分に出会えました。今日、改めて、私たちを成長させてくれたすべての皆さんに感謝したいと思います。

さて、厚木東高校は、令和6年度より、お隣の厚木商業高校と再編・統合されて新たな学校として生まれ変わる予定になっています。令和6年というと4年後の春です。この卒業生の中には、自らの地元で、神奈川県で、日本で、はたまた日本を越えて世界で活躍するような卒業生もいるかもしれません。

その大きな未来に向けた「道」は、人それぞれ違うものとなるでしょう。決められた「道」がないことや多くの可能性から、自ら「道」を選択しなければいけないこともあるかもしれません。

ですが、その歩みの中には、この厚木東高校での「学び」や「経験」、物事へ「挑戦（チャレンジ）」していく姿勢によって成長した、自分自身の姿があるはずです。その自分自身





を羅針盤として、私たちは進んでゆきます。

最後のチャイムが鳴ろうとしています。残りわずかの厚木東高校。この時間を噛みしめ、新たな一步を踏み出す決意です。

結びに、これまでお世話になりました先生方やP T A、王子会の方々。同窓会である常盤会の方々。地域の方々を始めとする、私たちを支えていただいたすべての皆様のご健勝とご多幸、そして厚木東高校のより一層の発展。これからの厚木東高校を牽引していく在校生の更なる活躍を心から祈念いたしまして、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和2年3月1日

神奈川県立厚木東高等学校

第72期 卒業生代表 水津 颯